

令和7年度 主要事業評価シート

① 基本事項

計画コード	22107	事業名	滋賀医科大学スポーツ・運動器科学共同研究講座支援事業			
事業手法	☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他(経費負担)					
施策体系	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実		予算科目	会計	01:一般会計
	基本施策	01:健康づくりの推進と地域医療の充実			款	04:衛生費
	施策の方向	04:地域医療体制の充実			項	01:保健衛生費
	重点プロジェクト	-			目	01:保健衛生総務費
事業期間	R 4 年度 ~ R 9 年度		主な根拠法令等	滋賀医科大学民間等共同研究取扱規程に基づく契約		

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	健康福祉部
課	健康推進課 地域包括連携G

② 事業概要 (P)

事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
地域医療提供体制を確保するためには、医療センターの常勤医師の充実必須であり、特に高齢化社会における救急や外来・入院等に対応する整形外科常勤医師の配置は不可欠である。また、フレイル(虚弱)やロコモティブシンドローム(運動器症候群)等の運動器疾患に対する研究・啓発も重要である。	市民等	滋賀医科大学との共同研究を通じて地域の健康へ寄与すること、具体的には地域医療体制の確保として、医療センターの整形外科常勤医師の配置により救急や手術・入院にしっかり対応した安心の医療を提供する。	滋賀医科大学と共同して、医療センターでの実際の臨床において整形外科の常勤医師による診療等を行う。併せて、フレイルやロコモティブシンドローム等の運動器疾患に対する啓発等を市の健康都市政策と連携して行う。こうした活動を行う講座に対して費用を負担する。

③ 事業の実施状況 (P・D)

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度				
事業計画	○滋賀医科大学との共同研究講座設置に向けた準備 ・設置申込 ・契約締結	○共同研究費の負担 ・市立医療センターにおける整形外科常勤医師の配置 ・診療、研究、啓発	○共同研究費の負担 ・市立医療センターにおける整形外科常勤医師の配置 ・診療、研究、啓発	○共同研究費の負担 ・市立医療センターにおける整形外科常勤医師の配置 ・診療、研究、啓発				
活動実績 (計画通り実施できたか)	令和5年度以降における整形外科常勤医師の配置を確約するため、滋賀医科大学と共同研究講座設置協定を締結するなど、計画通り実施することができた。	整形外科常勤医師2名を確保し、医療センターにおける救急診療、手術・入院に対応するなど、地域医療提供体制を確保した。また、市民公開講座を開催し、市民の運動器疾患に関する啓発を行った。	整形外科常勤医師2名を確保し、市立医療センターにおける救急診療、手術・入院に対応するなど、地域医療提供体制を確保した。また、健康都市大学運動ABCコース受講者を対象に寄附講座医師による「いまから始めるロコモ予防」講座を開催し、講座内でロコモチェックの計測を行い、調査研究に活用した。	整形外科の常勤医師2名を確保し、市立医療センターにおける救急診療、手術および入院医療に対応、地域の医療提供体制の確保を図った。また、寄附講座医師による、40～70歳の女性を対象に「女性の健康づくり応援・骨粗しょう症教室」やハイリスクの高齢者を対象に「ロコモティブシンドロームと転倒予防」教室を開催し、運動器疾患に対する研究・啓発を行った。				
計画額	事業費	0千円	25,200千円	25,085千円	25,200千円	25,100千円	25,200千円	25,085千円
	国・県支出金	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
	地方債	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
	その他	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
	一般財源	0千円	25,200千円	25,085千円	25,200千円	25,100千円	25,200千円	25,085千円
決算額	事業費	0千円	25,085千円	25,085千円	25,085千円	25,085千円	25,085千円	25,085千円
	国・県支出金	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
	地方債	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
	その他	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
	一般財源	0千円	25,085千円	25,085千円	25,085千円	25,085千円	25,085千円	25,085千円
①期間内計画額(R4-7)		75,600千円	②期間外計画額(R8-)	79,800千円	①+②総計画額	155,400千円		

(令和7年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	25,100千円
次年度への繰越額	0千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	滋賀医科大学への共同研究費の負担	スポーツ・運動器科学共同研究講座の研究経費として滋賀医科大学へ負担する	活動		計画値		経費負担	経費負担	経費負担
					実績値		25,085千円	25,085千円	25,085千円
	常勤の医師数	市立医療センターに配置された整形外科の常勤換算医師数	成果	人/日	計画値		2	2	2
					実績値		2	2	2
					計画値				
					実績値				

⑤ 成果 (C)	判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
	A	整形外科常勤医師2名の確保により、救急・手術・入院を含む整形外科医療を安定的に提供でき、地域住民の急性期医療へのアクセスと安心感が向上した。また、骨粗しょう症教室やロコモティブシンドロームと転倒予防教室を開催したことで、骨粗しょう症の発症リスクや予防方法、転倒リスクの低減や介護予防の促進につながり、運動器疾患に対する研究・啓発が図られた。
十分な成果を得た		

事業の対象	事業の目的
市民等	滋賀医科大学との共同研究を通じて地域の健康へ寄与すること、具体的には地域医療体制の確保として、医療センターの整形外科常勤医師の配置により救急や手術・入院にしっかり対応した安心の医療を提供する。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	外来患者数、手術症例数、入院患者数はいずれも年々増加しており、整形外科医療の需要が高まっている。短期的には常勤医師2名の確保により診療体制の維持に一定の目途が立っているものの、今後も患者数の増加が見込まれることから、長期的には幅広い医師確保方策の検討が不可欠である。また、フレイルやロコモティブシンドローム等の運動器疾患について市民への更なる啓発につながるよう研究データの活用を含めた講座の充実が求められる。

⑦ 事業 の 展 開 (A)	方向性	
	継続(拡大)	施策の更なる推進に向け、事業の拡大・充実を図る。
	改善・見直し内容	
	令和8年度で対応する(した)もの	令和9年度以降で対応するもの
	高齢者の生活機能低下を防ぐためには、運動器疾患と併せて生活の質の低下の一因となる慢性の痛み等の緩和に向けた適切な診療やリハビリも必要となるため、滋賀医科大学と協議を行い市立医療センターに麻酔科医を配置するとともに、研究課題に疼痛疾患を追加し、地域医療体制の充実を図る。	共同研究を継続して滋賀医科大学との連携を更に強化し、安定的に市立医療センターの医師を確保することで、地域の医療体制を強化する。

【履歴】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	A	A	A
事業展開	継続(拡大)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(拡大)

1次評価者	健康福祉部 健康推進課 地域包括連携GL 藤本 理恵
最終評価者	健康福祉部 健康推進課長 櫻井 ころこ